

### アメリカン大学

#### 国際関係学部・大学院 (SIS-AU)

#### 夏季・学期間プログラム

#### (Summer & Intersession Programs/SIS Abroad)

和栗 百恵 (福岡女子大学)

#### ◆ 実施期間

1991年～現在

#### 1. 概要

1893年に創立されたアメリカン大学(AU)は、米国首都ワシントンD.C.にある総合大学である。1957年、それまでの国際関係学部(Department of International Relations)での実績をもとに、アメリカン大学国際関係学部・大学院(SIS-AU)が誕生した。今日、SIS-AUは、150カ国以上から集まる2500人以上の学生、85名の専任教員を有する、全米で最大の国際関係学部・大学院となっている。SIS-AUでは、国際関係、比較・地域研究(Comparative and Regional Studies)、グローバル環境政策(Global Environmental Policy)、国際コミュニケーション(International Communication)、国際開発(International Development)、国際経済関係(International Economic Relations)、国際政治(International Politics)、平和・紛争解決(Peace and Conflict Resolution)そして米国外交政策(United States Foreign Policy)の8つの専攻分野を提供している。SIS-AUの学際的なカリキュラムは理論と実践の融合を意識したものとなっており、連邦政府の三権を担う機関や、中央官庁、各国大使館等行政・外交機関、非営利組織なども多く集まったワシントンDCの地の利を活かした、実践にひきつける教育プログラムを展開している。実践的教育充実のために、国内外でのインターンシップおよびフィールドスタディや短期・長期留学(デュアル・ディグリープログラム含む)の機会もふんだんに用意されている。SIS-AUのインターンシップ実施数は年間500件を超える。

SIS-AUにとって、本調査研究でいう「グローバル人材」育成は、その存在理由そのものである。「国際的および多文化間理解が必要となるプロフェッショナル・キャリア」に従事する人材養成を掲げ、卒業生は米国や他出身国の政府機関、国際機関、非営利組織などに就職する者も多い。SIS-AUのDean(学部長・研究科長)であるLuis Goodman教授によれば、SIS-AUは、「平和で友好的な世界を創出するためのservice(仕えること、貢献)に従事する人材を育成するため」に、リーダーシップ能力、多文化への配慮、専門知識、そして説得力を重視したコミュニケーション能力を向上させるカリキュラムを提供している。Goodman教授はSISの人材育成ミッションとそのミッション実現のための教育戦略について以下を挙げている<sup>21</sup>：

<sup>21</sup> 2010年2月11日、本調査研究に関してインタビューを実施した。

- ・ 「他者や社会に仕える (serving others)」意識や関心を育む支援が重要で、SIS ではその支援の充実を図っている
- ・ 世界へ視野を向けるための教養教育と共に、実用的な理想主義 (pragmatic idealism) を身につけるための教育プログラムを実施。例えば、貧困削減、環境保護、平和・紛争解決などのテーマのもと、実社会の問題について、問題を分析するだけではなく、解決方法を探ったり、解決にかかわったりする
- ・ それら問題解決に情熱をもった教員たちによる少人数教育を行う
- ・ 正課だけではなく、学生が実践を通して自身や自己効力感を高められるような課外活動の機会を充実させる
- ・ インターンシップやスタディ・アブロード (study-abroad) などの体験的な学習 (experiential learning) 手法を重要視する。

Goodman 教授が語る教育戦略のもと、SIS-AU が提供する多様なスタディ・アブロードの機会「SIS Abroad」を概観するために、表 1 にまとめる。SIS Abroad は、目的、期間、対象などにしたがって展開されている。

表 1. SIS-Abroad プログラムリスト

大学院レベル	
国際共同学位プログラム Intl Dual Degree Pgms	2 つの修士号を最短 2 年間で取得できる。立命館大学大学院国際関係研究科の他に、高麗大学大学院 School of International Studies (韓国)、淑明女子大学校 School of International Service (韓国)、国連平和大学 (コスタリカ) との共同学位プログラム。各国でのキャリアに役立つような知識、スキルおよび実践的な経験を獲得する
学期留学プログラム Semester Abroad Pgms	留学先の単位を AU の単位に換算。AU での学習を補完すると共に、異文化理解を育む。国連平和大学、マドリッド・カルロス 3 世大学大学院、カイロ・アメリカン大学大学院、パリ政治学院、立命館大学大学院、中国研究インスティテュート (China Studies Institute) がパートナー校。
夏季・学期間プログラム Summer & Intersession Pgms	短期間で教員が引率する体験的な海外学習。詳細に組まれたカリキュラムにより、特定の地域やテーマについて学ぶのに最適。訪問地のリーダーとの出会いやフィールド調査、やりがいのあるインターンシップの機会などがふんだんにある
学部レベル	
国際共同学位プログラム Intl Dual Degree Pgms	立命館大学国際関係学部との共同学位プログラム。米国・日本でのキャリアに役立つような知識、スキルおよび実践的な経験を獲得する
学期留学プログラム Semester Abroad Pgms	留学先の単位を AU の単位に換算。AU での学習を補完すると共に、異文化理解を育む。パリ政治学院、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、高麗大学、淑明女子大学校がパートナー校。
夏季・学期間プログラム Summer & Intersession Pgms	短期間で教員が引率する体験的な海外学習。詳細に組まれたカリキュラムにより、特定の地域やテーマについて学ぶのに最適。訪問地のリーダーとの出会いやフィールド調査、やりがいのあるインターンシップの機会などがふんだんにある
AU 留学プログラム AU Abroad	SIS ではなく、アメリカン大学として提供されているプログラム。英語圏への留学。

このように、大学・学部共に、留学やフィールド調査、インターンシップ等の多様な海外体験を支援する仕組みが用意されている。

さて、本調査報告では、Goodman 教授のコメントにもあるスタディ・アブロード、その中でも「夏季・学期間プログラム (Summer & Intersession Programs、以後 SIPs)」を扱う。SIPs は、大学をパートナー機関としてパートナー大学の授業科目を履修するという「伝統的な」留学と一線を画し、引率教員が現地コミュニティ団体や実務機関の訪問などの「現場体験」、それらを咀嚼するためのセミナーや、現地調査などをモニターすることを特徴としている。SIS-AU では、そのような非伝統的なプログラムを今後さらに充実させることが検討されている<sup>22</sup>。

## 2. Summer & Intersession Programs (SIPs) 運営

### ◆ 組織体制

SIS-AU には、国際プログラム開発室 (SIS Office of International Program Development、以後 OIPD) が設置されており、表 1 の「AU 留学プログラム」以外、SIS-AU オリジナルの全てのプログラムについて、担当教員と共にプログラム開発 (ロジスティックス手配)、予算立て、広報、募集、選考、奨学金、渡航・旅行説明、プログラム終了時の評価など一連の業務を行っている。OIPD の職員は、特に、渡航前オリエンテーションや学生相談、プログラム評価など、プログラムのロジスティックスだけではなく「コンテンツ」にかかわる部分にも深く関与する。SIPs には、SIS 教員でない教員がかかわるものもある。

### ◆ 夏季・学期間プログラム (SIPs) 一覧

2010 年度 2 月現在の SIPs を表 2 にリストする。

表 2. 夏季・学期間プログラム (SIPs) 一覧 (2010 年度 2 月現在)

プログラム名	場所	担当教員、アシスタント	トピック	プログラム期間	対象
The economic & cultural impact of globalization	オアハカ州 (メキシコ)	SIS 准教授、政治地理学	先住民コミュニティや支援団体。サボテク文化。個人々の村でのリサーチ (1 週間)	コアセミナー (5 週間)、リサーチプロジェクト (3 週間)、それぞれの要素に 3 単位。全 6 単位。全 2 カ月。	米国内にある高等教育機関の大学院生。学部生でも既に卒業単位のうち 60 単位以上取得していれば可。
Human security in South Asia	デリーおよびオリッサ (インド)	SIS 教授、国際関係学	人間の安全保障。環境、文化、アイデンティティ。	全 10 日間の日程。機関訪問や、文化・歴史サイトの訪問。3 単位。	AU の大学院生。学部生でも既に卒業単位のうち 60 単位以上取得していれば可。オーナーズプログラムの学生も可。
An applied workshop	イスラエル、	George Mason	暴力、紛争解	コアセミナー (現地ス	AU 大学院生および学

<sup>22</sup> SIS-AU の OIPD (Office of International Program Development) の Yoon 副室長による。

on civil society, politics, and conflict resolution	パレスチナ	University 教授、国際関係学	決と平和構築、持続可能な開発	テークホルダーからのレクチャーやディスカッション)、イスラエルあるいはウエストバンクでのインターンシップ。それぞれの要素に3単位、全6単位。全1か月。	部生(高学年)。
Inside rising China	北京(中国)	China Studies Institute アカデミックディレクター	中国経済。政治、環境、社会的課題	コアセミナー(著名人からのレクチャーとディスカッション)、インターンシップ(選択)、自主研究(選択)。それぞれの要素に3単位ずつ。全6週間。	米国内にある高等教育機関の大学院生。
The practice of environmentalism: Science, policy and communication.	ガラパゴス諸島(エクアドル)	SIS 助教、国際関係学; AU-School of Communication 准教授、映像作家; AU-Dept of Environmental Science 学科長、生物学	環境科学、国際政治、メディアの分野から学際的に環境問題にアプローチ	フィールド調査法、政策分析、ドキュメンタリー・コミュニケーション技術などを通して、環境問題を理解し問題解決にかかわるためのスキルを得る。春・夏の2セメスター連続で6単位。	AUの大学院生および学部生。
Politics and policies in the EU: Internship program in Brussels	ブリュッセル(ベルギー)	SIS 准教授、国際関係学 【アシスタント】 AUブリュッセルセンタースタッフ	ヨーロッパ社会経済文化事情	インターンシップ経験と、プログラムディレクターのシラバスに従った/学生独自の計画に従った自主研究(選択)。それぞれの要素に3単位ずつ。全6週間。	米国内にある高等教育機関の大学院生。
Sookmyung international summer school program	ソウル(韓国)	淑明女子大学の教員	異文化コミュニケーション、リーダーシップ研修、メディアの歴史	2つのコースを選択。それぞれ3単位、全6単位。全3週間。	AU学部生向け。
Globalization, governance and security in Southeast Asia: Perspectives from Malaysia & Singapore	クアラルンプール(マレーシア)、シンガポール	SIS 助教	政治、経済の近代化、東および東南アジアにおけるグローバル化	セミナー、インターンシップ、自主研究それぞれ3単位で自由選択制。3単位から9単位まで。全3週間。	米国内にある高等教育機関の大学院生および学部生。
Democracy and development in South Africa	ケープタウン(南アフリカ)	SIS 教授、国際開発 【アシスタント】 SIS 助教、国際経済学	民主化、政治改革、ローカルガバナンス、公衆衛生、観光、エスニシティと国家アイデンティティ、貧困等	コアセミナー(著名な現地関係者からのレクチャーやディスカッション)、インターンシップもしくは自主研究。それぞれ3単位、計6単位。全6週間。	米国内にある高等教育機関の大学院生。学部生でも既に卒業単位のうち90単位以上取得していれば可。
Political economy of	ドバイ(アラ)	American	中東の社会経	コアセミナー(ドバイ	米国内にある高等教

the Middle East	ブ首長国連邦)	University of Cairo 助教	済問題。湾岸諸国。	あるいはアブダビの著名なシンクタンクや実務家からのレクチャーやディスカッション)、インターンシップもしくは自主研究。それぞれ3単位、計6単位。全8週間。	育機関の大学院生。学部生でも既に卒業単位のうち90単位以上取得していれば可。
Practice of international relations: International internships	世界各地	n/a	教室で学んだ知識やスキルを、国際関係の実務分野に適用してみる	3単位。2010年度は、インド(リサーチアシスタント)、アラブ首長国連邦(リサーチアシスタント)、韓国(国際プログラムコーディネーター)	SIS 大学院生に限る

## ◆ 参加者募集、応募方法、費用や準備など

### ① 参加者募集

- ・ AU あるいは AU 以外の米国大学に所属している学部生あるいは大学院生であること。
- ・ 学業・人物に優れていること。AU 学生は、アカデミックプロベーション（仮及第、学業不振の学生に対する処分）を受けていないことや、学則違反者でないこと。他大生も同じ。
- ・ AU 学生の場合は、アカデミックアドバイザーから、プログラムに参加するための学習計画への承認を得ていること。

### ② 応募方法

- ・ プログラム説明会に参加、あるいはプログラムの資料を取り寄せ、応募書類を提出。応募書類は、応募用紙、応募動機、成績証明書、履歴書およびアカデミックアドバイザーからの承認書が一般的。プログラムによってはさらに提出書類がある。

### ③ 費用

- ・ プログラム費用に含まれるのは、渡航前のオリエンテーション、海外保険、宿泊、移動、数回の食事、サイト訪問やフィールド訪問費用、インターンシップ経費（必要な場合）、そしてティーチング費用<sup>23</sup>。
- ・ プログラム費用の他に、自分自身で宿泊場所を手配するのであればその費用、航空券、日々の食事、他に個人的に必要なものについては個人負担。

### ④ 渡航までの準備

<sup>23</sup> 授業料のようなもの。別項でも述べるが、このような短期プログラムを担当する教員には手当てがある。

- ・ SIS で開催される渡航前オリエンテーションに出席する。プログラムの詳細や異文化コミュニケーション、安全対策、ロジスティックス、シラバスと課題読物、等、プログラム参加に必要な事柄がカバーされる。
- ・ 学生は、参加にあたっての誓約書(免責)、緊急連絡先フォーム、フライトスケジュール、保険証書、パスポートのコピーを OIPD に提出する。

#### ⑤ 評価

- ・ それぞれのプログラムによって課題や評価は異なるが、pass/non-pass ではなく、5段階評価が付けられる。

### 3. Summer & Intersession Programs (SIPs) 開発および評価

#### ◆ プログラム開発・評価のプロセス

多様な SIPs を有する SIS では、SIS 教員が新しいプログラムを提案することができる。提案を受けて、OIPD と学部長／研究科長室 (Office of the Dean、以後 OD) と共に、予算、学習内容、SIS のカリキュラムとの整合性などをレビューする。また、全てのプログラムについて学生からの評価を受け、その評価を用いて、プログラムの効果や翌年度提供する価値についての議論を OIPD と OD が行う。適宜、学生や担当教員へのヒアリング、世界情勢、予算等の兼ね合いを見定めながら、翌年度について決定する。

評価に関しては、2度行う。1度目が、現地プログラム終了直後であり、2度目が、次のセメスター中である。これは、現地での学習がもたらすインパクトを測るものであり、プログラムの継続・取りやめについても重要な情報となる。

プログラムの質保証について、学生からの評価以外の要素としては、Yoon 副室長は、「教員と、カウンターパート組織の強い関係性」とコメントしている。既に人的・場所的ネットワークを培い持っている教員が、プログラム実施を担当していることへの信頼である。

OIPD は毎年マーケティングの一環として、大学院生を対象に、興味・関心がある地域や学習方法 (インターンシップ、リサーチ、あるいはコースワーク) などについてアンケートをとる。学生の興味関心は多岐にわたるが、それらを吸い上げながらプログラムを作り上げるように努力している。

#### ◆ 既存のプログラムとの関係

SIPs は、正課の中にある既存の科目との明確な関連性をもっていない。つまり、SIPs として、単位も付与され、その意味ではカリキュラムの中に存在するのだが、「履修モデル」が提示されているわけでもない。Yoon 副室長は、「SIPs は、学生たちが SIS 教員と共に時間を過ごし、選択科目や必修の研究 (research) を実施するためのオルタナティブな機会を与えている。全ての学生は、AU キャンパスでの学習を補完する、このように非伝統的 (non-traditional) な経験を探し出すように促されている」と語る。SIS-AU が謳う理論と実践の融合の実体化の仕掛けのひとつとして、「大学」という場所における「伝統的」と「非伝統的」なものの掛け合わせが実現している。その掛け合わせに、カリキュラム上での厳密な構造化は成されていないが、「非伝統的な経験」の必要性の提唱や、関連したマーケティング、広報には力が入っている。

#### ◆ プログラム担当教員の確保

SIS では、教員に対して SIPs の開発を強く奨励している。必要な分野については、大学から教員にプログラム開発を打診することもある。新しくプログラムを開発しようとする教員には、開発のための費用が提供される。SIPs 担当となるインセンティブとしては、増束手当てがある他、現地での研究活動も可とされている。

SIS の教員雇用方針に、国際関係という学問の中で多様な専門分野と共に、多様な実務経験をカバーすることがある。この多様な実務経験を持った人物の雇用も SIPs 開発・運営につながっている。

ただ、特に夏季プログラムの教員の確保は課題という認識もある。

#### 4. Summer & Intersession Programs (SIPs) の財政状況（学生への財政的支援含む）

SIPs は受益者負担の原則をとっているが、学生たちには、様々な（競争的）奨学金オプションが紹介されている。

#### 5. Summer & Intersession Programs (SIPs) の実施・継続に関する課題と今後

この質問に対する Yoon 副室長の解答は、①学生がキャンパスで学んでいることと、より学びたいと思っていることの把握、②SIPs を担当できる教員の発掘と、既に担当している教員のプログラム継続、③学生への SIPs 周知の徹底、④SIPs 実施および継続に必要な募集人数の獲得、であった。SIPs の財政は受益者負担で賄えることから特に問題はないが、他の伝統的パートナー大学との留学・共同学位プログラムに関しては、受益者負担にできないところが困難であるとのことだった。今後、非伝統的なプログラム（インターンシップ等の体験的な学習）のさらなる充実を図るために、大学として、インターン派遣先の発掘も行っている。

Goodman 学部長／研究科長も、SIPs は、実用的な理想主義（pragmatic idealism）を体現するための教育機会であり、今後もプログラムの充実を図る方針であると語った。本調査研究の背景を伝えた際、日本の学生たちは「内向き」になっているのではなく、機会が十分に提供されておらず、国外で学び活動することに関しての大学の「価値観」が伝わりにくい、とのことだった。SIS では正課・課外ともに機会をふんだんに用意し、「他者や社会に仕えること」という価値観を繰り返し伝え、それらの実践の必要性を説くという。それが学生たちにとって抽象論・理念論だけにならないのは、冒頭にも記したように、「情熱をもった」教員たちと学ぶ SIPs を介して、学生たち自身が肌身で感じ、考え抜く必要性に迫られるからではないだろうか。「グローバル人材」育成の施策を検討する上で、大学教育改革の分野でも議論されているような、大学教員の役割や人材育成目標の明確化、それを反映したカリキュラムの開発・点検についても議論していく必要があるだろう。

末筆ではあるが、この調査研究に多大なるご協力をくださった SIS-AU の Dean Goodman、SIS 国際プログラム開発室の Yoon 副室長に厚く御礼を申し上げます。

#### ◇ 参考資料

- SIS Abroad. (2010). <http://www.american.edu/sis/sisabroad/>. School of International Service, American University.